

第二十八章 需要と供給が価格に及ぼす影響

商品価格は最終的には生産費によって決まるのであって、しばしば言われるように需要と供給の比率によって決まるのではない。需要と供給の比率は、需要の増減に応じて供給が過不足を是正し、供給量の調整が済むまでの一定期間は市場価格を左右しうるものの、その影響は短期的なものにとどまる。

帽子の生産費を下げれば、たとえ需要が二倍、三倍、四倍になっても、帽子の価格は最終的に新たな自然価格に落ち着く。食料や衣服などの生活必需品の自然価格を引き下げて人々の生活費を抑えれば、労働需要が大幅に増えても、賃金はやがて下がる。

財や商品の価格は需要と供給の比率だけで決まるといふ見方が、政治経済学ではほぼ自明の前提と見なされ、その結果、多くの誤りや誤解を招いてきた。この前提に立つてブキャナンは、賃金は食料の価格の上昇や下落には左右されず、労働の需給だけで決まると主張する。さらに、賃金に対する課税を行っても、労働需要と労働供給の比率が変

わないため、賃金を引き上げることはないと論じる。

ある財の需要は、購入量や消費量が増えないかぎり増えたとは言えない。とはいえ、貨幣の価値が下がると、その財の名目価格は上がり得る。貨幣の価値が下があれば買手は以前より多くの貨幣を支出することになるため、あらゆる財の価格は上昇する。ただし価格が一〇から二〇パーセント上がっても取引量が増えていないなら、その価格の上昇を需要増の結果とみなすのは妥当ではない。貨幣の価値の変動に応じて、貨幣で表示される生産費、すなわち自然価格が実際に変わり、需要が増えなくてもその財の価格は新しい貨幣価値に合わせて自然に調整される。

セイは、生産費が価格の下限を決め、その水準を下回る価格は長期には維持できないと述べている。なぜなら、その場合、生産は完全に停止するか縮小してしまうからである（第二巻二六頁）。

彼はのちに、金鉱の発見以来、金の需要が供給よりも大きな割合で増えたため、「他の財との交換比率で見た金の価格は本来なら一〇分の一まで下がるはずだったが、実際には四分の一までしか下がらなかった」と述べた。つまり、自然価格の低下に見合う割合で下がったのではなく、供給が需要を上回った割合だけ下がったのだという。さらに

「すべての財（商品）の価値は常に需要に正比例し、供給に反比例する」と総括した。

ローダーデル伯爵も同様の見解を示している。

価値の変動に関して言えば、価値をもつものはすべて変動にさらされる。そこで、内在的かつ固定的な価値をもつ物質が存在し、その一定量がいついかなる状況でも同じ価値を保つと、ひとまず仮定する。この固定された標準に照らして測れば、あらゆるものの価値は、それらの数量とそれに対する需要の比率によって変わり、結果として、すべての商品は、その価値が四つの異なる事情によって変動することになる。

第一に、その数量の減少によって、その価値は上昇する。

第二に、その数量が増加すると、その価値は低下する。

第三に、需要の増加により、価値が上がる可能性がある。

第四に、需要が不足すると、その価値は下がる可能性がある。

どの商品にも固定した内在価値はなく、他の商品の価値を測る絶対的な基準にはならないため、人々は価値の実用的な尺度として、価値変動の唯一の原因であるこれら四つの要因の影響を最も受けにくいと見なせるものを選ぶ。

したがって、どの財についても日常的な言い回しで価値を述べると、時期が異なれば

その価値は互いに異なる八つの要因の影響で変動することがある。

第一に、当該商品の価値は、前述の四要素を総合的に検討して評価される。

第二に、価値の尺度として選んだ商品にも、同じ四つの事情が当てはまる。

これは独占商品について成り立つ原理であり、一定期間に限っては他のあらゆる商品の市場価格にも妥当する。たとえば帽子の需要が二倍になれば価格は直ちに上がるが、帽子の生産費、すなわち自然価格が上がらないかぎり、その上昇は一時的にとどまる。

いっぽう、農業における大きな科学的発見によってパンの自然価格が五〇パーセント下がっても、需要は大きくは増えない。人は必要を満たせばそれ以上は求めず、需要が増えなければ供給も増えない。作れるというだけでは商品は供給されず、需要があつてこそ供給される。したがって供給と需要はほとんど変わらないか、変わつてもほぼ同じ割合にとどまる。にもかかわらず、しかも貨幣価値が不変のままである時期に、パンの価格は五〇パーセント下落していることになる。

個人や企業が独占する商品では、ローダー・デール卿の法則に沿って価格が変動し、売り手が供給量を増やすほど価格は下がり、買い手の購入意欲が強いほど価格は上がる。

そのような価格は自然価値に必ずしも結び付かない。これに対して、競争が働き、無理

5 第二十八章 需要と供給が価格に及ぼす影響

なく供給量を適度に増やせる商品では、最終的な価格は需給の状態ではなく、生産費の増減に左右される。